

令和2年 9月 2日

令和3年度の教育プログラム認定について

山形大学理事（教育担当）

出口 毅

令和3年度の各学部等の教育プログラムについては、以下の2つの観点に基づき、全プログラムについて検証作業を行った結果、適切であると判断し、令和3年度の教育プログラムとして認定する。

【観点1】

教育プログラムが、各学部等のDPやCPに沿ったカリキュラム編成となっているか？

- ・DPやCPに沿った適切なカリキュラム編成であると判断する。

【観点2】

教育プログラムが体系的に編成され、それに沿った開講科目の配置となっているか？

- ・体系的に編成され、適切であると判断する。

【教育プログラム認定の総括】

- ・今回で各学部等の教育プログラム検証作業は5回目となる。カリキュラムチェックリストにより、各授業の達成度レベル等が可視化することができるようになり、客観的に教育プログラムの認定が行われている。
- ・教育プログラムを認定する上で、上記観点1及び2は非常に重要な観点であるが、さらに発展的な視点からプログラムの認定を行うことができるか、引き続き検討していく。
- ・個々の授業科目とDP及びCPとの対応関係や達成度レベルの指標を用いて、適正な授業配置についての評価を行うことが望ましい。

【会議での審議状況】

令和2年8月27日 学部統括教育ディレクター会議（協議）
令和2年9月 2日 役員会（協議）
令和2年9月 9日 教育研究評議会（報告）

令和3年度の教育プログラムの検証結果について

学部			観点1	観点2	認定の可否	備考
人文社会科学部	人文社会科学科	人間文化コース	○	○	○	一部の科目の履修者数と開講数のバランスについては、今後学部の関係委員会で検討することとする。
		グローバル・スタディーズコース	○	○	○	
		総合法律コース	○	○	○	
		地域公共政策コース	○	○	○	
		経済・マネジメントコース	○	○	○	
地域教育文化学部	地域教育文化学科	児童教育コース	○	○	○	免許実習科目について、カリキュラムチェックリストが未記入である点については、本部の指示に従い、次年度以降修正予定。
		文化創生コース	○	○	○	
理学部	理学科		○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 「化学コースカリキュラムとそれ以外のコースカリキュラムの理学専門科目でCP5とCP6の対応が異なっているが、学科全体のプログラムとして考えた場合、どちらかの表記に統一するのが妥当ではないでしょうか。」という指摘があったため、再度検討し、CP5とCP6の対応を統一した。 理学共通科目の「課題研究」のCP対応を修正（CP4からCP5に変更）した。
医学部	医学科		○	○	○	
	看護学科		○	○	○	
工学部	高分子・有機材料工学科		○	○	○	建築・デザイン学科について「Aの科目がない」旨指摘がなされたので、改めて能力の“測定・把握”を行いながら進める卒業研究を「A」の科目に位置付けた。
	化学・バイオ工学科		○	○	○	
	情報・エレクトロニクス学科		○	○	○	
	機械システム工学科		○	○	○	
	建築・デザイン学科		○	○	○	
	システム創成工学科		○	○	○	
農学部	食料生命環境学科	アグリサイエンスコース	○	○	○	
		バイオサイエンスコース	○	○	○	
		エコサイエンスコース	○	○	○	

○カリキュラム・チェックリスト

教育課程の編成・実施方針 (CP)	学位授与方針 (DP)
CP1 文化資源と自文化の価値の理解を地域課題の解決につなげることで実践力を育成するため、課題解決型の実践教育科目を配置する。	DP1 事物や出来事を持つ文化的意味とその多元性を理解するとともに、地域や文化の異なる人々と意見交換しながら、現代社会の様々な課題を解決することができる。
CP2 将来の展望と職業選択の準備が適切にできるように、キャリア関連の科目を必修化する。また、民間企業、地方自治体などのインターンシップを実施する。	DP2 社会の中で人文学を学ぶ意味を理解して、学ぶことの意義と自らの役割を考えながら、将来の展望と職業選択に必要な知識や能力を身につけている。
CP3 高度な日本語能力を養成するために、専門科目の随所にレポート作成や発表・討論を取り入れる。英語の幅広い能力を獲得するため2年次以降も英語による授業や演習の科目を配置する。多様な言語の能力を養うために、初修外国語の履修を必修化する。	DP3 日本の文化・歴史や社会的課題に関する学術的な知見を、高度な日本語によって適切に説明するとともに、多様な言語で書かれた専門文献を的確に読み、日本語や外国語でコミュニケーションをとることができる。
CP4 データの分析能力を修得するために、1年次の「情報処理」に加えて、社会調査法、統計学の基礎に関する授業科目を設定する。また、データ処理力を養成するための演習を必修化する。	DP4 情報機器を活用した情報収集や文書作成の能力に加えて、情報セキュリティを含む情報管理能力を身に付けた上で、文献資料、実地調査、実験等で得られたデータを分析し、効率的な情報発信や効果的なプレゼンテーションを行うことができる。
CP5 人間と文化について地域や分野を横断する視点から幅広い教養を身に付けさせるために、教養科目履修に領域指定を行う。また2年次以降に分野横断の学部共通科目群を配置する。さらに専門科目では隣接領域と連携した履修モデルを準備する。	DP5 地域や日本、近隣諸国などの様々な文化的背景を持つ人間とその活動を理解し、領域横断的な教養を身につけている。
CP6 人文学の専門知を体系的に修得させるために、専門科目を導入・基礎・展開のレベル別に区分し、基礎科目と展開科目において講義と演習を配置する。あわせて、4年次に専門知の応用力を育成するために少人数による卒論演習を配置する。	DP6 人文学の専門領域について中核となる学術的成果を修得するとともに、自ら文化資源や問題を発見し、論理的・批判的思考の結果を意見としてまとめることができる。

■授業科目表【人間文化コース】

授業科目	単位数	授業形態	開講学年	ナンバリング	平成30年度履修者数	教育課程の編成・実施方針 (CP)						授業の目的	到達目標	学位授与方針 (DP)						授業担当		授業種別		開講形態	チェック欄						
						CP1	CP2	CP3	CP4	CP5	CP6			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	種別 (主・副・兼・非常勤・新採等)	氏名	必修・選必修・自由・免許・資格・他	到達目標の明確性		授業目的及び目標がDPと対応しているか	授業目的及び目標がCPと対応しているか					
1 キャリア・ガイダンス	2	講義	2	HCA2303	39		◎						キャリア形成と職業選択 講師である各界で活躍する若手社会人(30歳代中心)の職業意識、その職業を選択した背景、今後のキャリアアップ構想を聞くことにより、受講者のキャリア形成のヒントとする。	職業をアクティブに選択していく重要性を理解する。社会人のキャリアを聞くことにより自分のキャリアを考える契機とする。社会人とのコミュニケーション、グループワークを通してコミュニケーション能力を高める。								◎	I	非常勤講師	1	選必修					
2 キャリア形成論	2	講義	2	HCA2201	28		◎						自身のキャリアを形成することの意味を考え、職業意識を涵養する。	多様な職業を知り、働く意味や自分の将来についてイメージできるようになる。										◎	R	非常勤講師	2	選必修			
3 キャリア形成論演習	2	演習	2	HCA3304	9		◎						キャリアプランとライフプランの作成 自分について振り返る作業と、社会や職業について理解する作業を軸として、自分にとってのキャリア(仕事、人生)について考える。	個人作業とグループ演習を通して、自分についての理解を広げ深める。グループ演習を通して自分とは異なる価値観に目を向け、他者や社会への理解を深める。課題や授業のテーマへの取り組みを通して、自分の考えをまとめて表現する。								◎	R	非常勤講師	3	選必修					
4 インターンシップ	2	実験・実習	2	HCA3305	99		○	◎					就業体験を通じた自己認識と社会への適応 自治体・企業・NPO等における研修を通じて、学習意欲と就職に対する意識を喚起し、実社会において必要とされる高い職業意識や自立心と責任感を育成する。大学で学んだ知識と能力を応用して実践する能力を育成する。	研修先での就業体験を通じ、コミュニケーション能力を身につけるとともに、社会についての認識や自分自身の適性についての理解を深める。	OR	◎	M	主	学部進路指導委員会	選科											

各科目について、C P及びD Pとの関連性を◎○△で表記。
 ◎ DP 達成のために、特に重要な事項
 ○ DP 達成のために、重要な事項
 △ DP 達成のために、望ましい事項

各科目について、以下の習熟度を追記。
 I Introduced = 導入
 R Reinforced/Practiced = 発展/強化
 M Mastered = 熟達
 A Assessed = 測定/把握